

外国武官等の部隊等訪問時における儀礼用国旗の使用について（通達）

昭和 42 年 1 月 19 日
陸幕 1 第 44 号

改正	昭和 42 年 8 月 24 日陸幕 1 第 67 号	昭和 43 年 5 月 15 日陸幕 1 第 377 号
	昭和 47 年 11 月 29 日陸幕 1 第 605 号	昭和 48 年 3 月 2 日陸幕 1 第 86 号
	昭和 49 年 1 月 29 日陸幕 1 第 33 号	昭和 49 年 12 月 3 日陸幕 1 第 603 号
	昭和 51 年 1 月 20 日陸幕 1 第 21 号	昭和 53 年 1 月 13 日陸幕監理第 1 号
	昭和 59 年 4 月 20 日陸幕人計第 150 号	昭和 60 年 1 月 18 日陸幕人計第 12 号
	昭和 61 年 7 月 4 日陸幕人計第 228 号	昭和 63 年 5 月 19 日陸幕人計第 180 号
	平成 19 年 3 月 23 日陸幕人計第 131 号	平成 19 年 3 月 28 日陸幕法第 61 号
	平成 20 年 3 月 25 日陸幕人計第 157 号	平成 22 年 3 月 23 日陸幕人計第 185 号
	平成 23 年 3 月 30 日陸幕人計第 193 号	平成 26 年 3 月 28 日陸幕人計第 180 号
	平成 30 年 3 月 27 日陸幕人教第 192 号	

陸上総隊司令官

各方面総監

各部隊長

殿

各機関の長

陸上幕僚長の命により

総務課長

（例規 25）

外国武官等の部隊等訪問時における儀礼用国旗の使用について（通達）
標記について、当分の間、下記により実施する。

記

- 1 儀礼用国旗を使用する部隊等
陸上幕僚監部、陸上総隊司令部、方面総監部、師団司令部及び陸上幕僚長
がその都度指示する部隊等とする。
- 2 儀礼用国旗を使用する場合
 - （1）外国の将官及びこれと同等以上の軍の職務にある文官が部隊等を公式
訪問する場合
 - （2）外国の大公使、領事または駐在武官が部隊等を公式訪問する場合
 - （3）その他陸上幕僚長がそのつど指示する場合
- 3 儀礼用国旗の種類及び備付部隊等
 - （1）種類（アルファベット順）

アルゼンチン (Argentina) 、オーストラリア (Australia) 、ブラジル (Brazil) 、カナダ (Canada) 、中央アフリカ共和国 (CentralAfricanRepublic) 、チリ (Chile) 、中華人民共和国 (China) 、フランス (France) 、ドイツ連邦共和国 (Germany) 、インド (India) 、インドネシア (Indonesia) 、イラン (Iran) 、イラク (Iraq) 、イスラエル (Israel) 、イタリア (Italy) 、日本 (Japan) 、ジョルダン (Jordan) 、大韓民国 (Korea) 、マレーシア (Malaysia) 、メキシコ合衆国 (Mexico) 、ミャンマー連邦 (Myanmar) 、パキスタン (Pakistan) 、ペルー (Peru) 、フィリピン (Philippines) 、ポーランド (Poland) 、ルーマニア (Rumania) 、ロシア連邦 (Russian) 、サウディ・アラビア (SaudiArbia) 、スイス連邦 (Swiss) 、タイ (Thailand) 、トルコ (Turkey) 、イギリス (U.K.) 、アメリカ合衆国 (U.S.A.) の 33 箇国分とする。

(2) 備付部隊等

陸上幕僚監部、陸上総隊司令部、方面総監部、第1空挺団、第302保安警務中隊及び富士学校に備え付けるものとし、備付部隊等以外の部隊等が使用する場合は、備付部隊等のものを転用する。

4 儀礼用国旗及び付属品の制式と数量

(1) 制式

国旗の大きさ及び旗ざお (かん頭を含む。以下同じ。) 、保持用バンド、三脚架の制式は、部隊用国旗のものと同じとする。ただし、第302保安警務中隊については、次表のとおりとする。

品名	制式
国旗	縦 100 センチメートル×横 150 センチメートル
旗ざお	(1) 黒うるし塗り、2本継ぎ、固縛環付
	(2) 長さ 210 センチメートル
保持用バンド	(1) 黒色及び白色の皮製、金色バックル付
	(2) クロスサスペンダー付

(2) 1組分の数量

旗 (33 箇国分) 各 1 りゅう (ただし、アメリカ合衆国、大韓民国、イギリスおよびドイツ連邦共和国は各 2 りゅう) 、旗ざお 7 本、旗ざお収納袋 7 箇、保持用バンド 4 本、三脚架 4 基、三脚架収納袋 4 箇、旗収納箱 1 箱とする。

5 儀礼用国旗の用法

- (1) 通常、室内において使用するものとし、訪問者との会見の場となる室、午さん会場等のうち主要な室内 (2 箇以上に渡り使用することを妨げない。) に、日本国旗に並列して三脚架に立てかけまたは側壁等に展張もしくは下げて使用する。
- (2) 多数国にわたる儀礼用国旗を使用する必要がある場合等、室内において使用する適当な場所または機会がないときは、隊舎の入口または儀じょう隊の荣誉礼の場に日本国旗と並列して捧持する。

- (3) 前号において、儀じょう隊の榮譽礼の場合に使用する際は、受礼台の後方もしくは側方または音楽隊の右翼側で間隔をおいたところに位置するものとし、旗衛隊員をつけず、国歌の奏楽も行わない。

6 儀礼用国旗の細部使用要領

(1) 室内において三脚に立てかける要領

- ア 相手国の国旗を上位（向かって左）、日本国旗を下位（向かって右）に並列する。

- イ 相手国の国旗が2箇国以上に渡る場合は、当該国旗の並列順位はアルファベット順とする。ただし、駐在武官団に対する場合は、武官の着任順位に当該国国旗を並列するのを例とする。

- ウ 国旗を飾る場所は、通常、上位席の後方付近とする。

(2) 室内において側壁等に展張またはつり下げる要領

- ア 並列順位は、前号に同じとする。

- イ 展張する場合の国旗は、上下、左右を正規のとおり展張する（別図参照）。

- ウ つり下げる場合の国旗は、正規の上下左右を時計回り方向に90度回してつり下げるが、米国旗の場合は星のある部分を向かって左上部にする。

- エ 展張またはつり下げる場所は、通常、上位席の後方側壁部とする。

(3) 室外で捧持する要領

- ア 並列順位は、室内の場合に同じとする。

- イ 捧持要領は、保持用バンドを使用する場合は部隊用国旗の要領と同じとし、保持用バンドを使用しない場合は、隊旗の要領と同じとする。

- ウ 捧持する国旗は、敬礼を行わない。

7 儀礼用国旗に対する敬礼

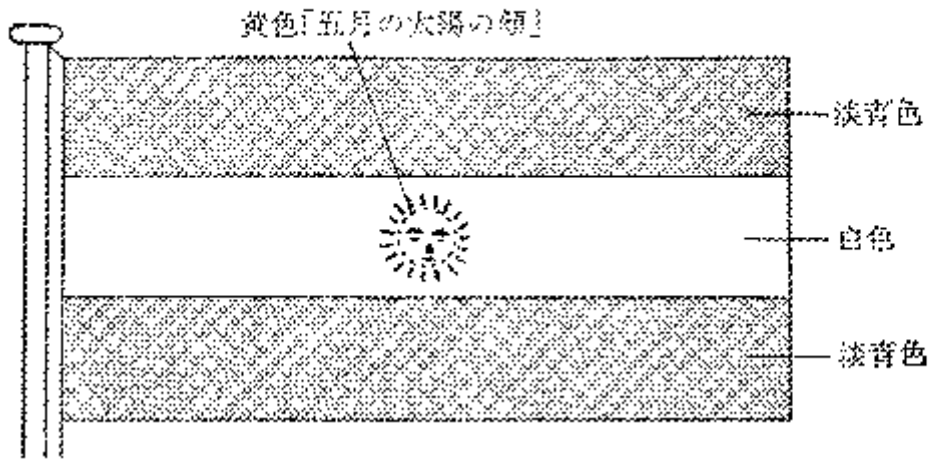
訪問者を案内している出迎者が室外で捧持する儀礼用国旗の前を通過するときは、敬礼を行う。

8 備付儀礼用外国国旗の制式

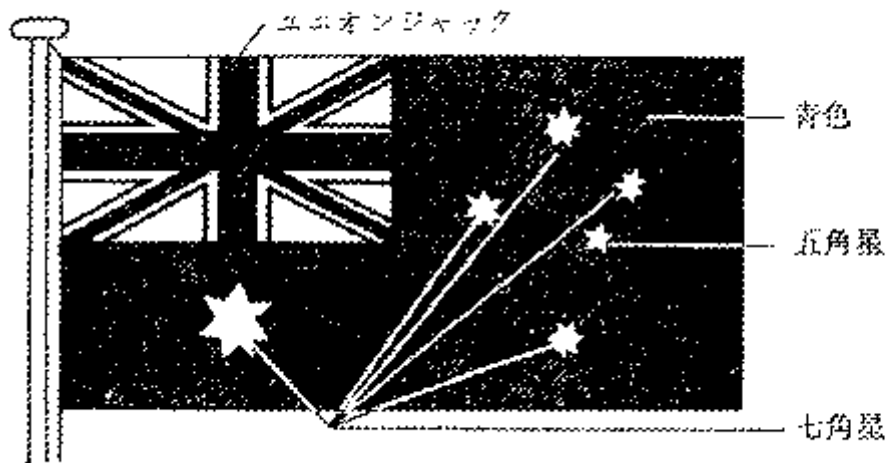
別図のとおりとする。ただし、各外国国旗の縦、横の長さの比率は、それぞれ異なっているが、実際の補給品は、縦横の寸法を統一してある。

別図

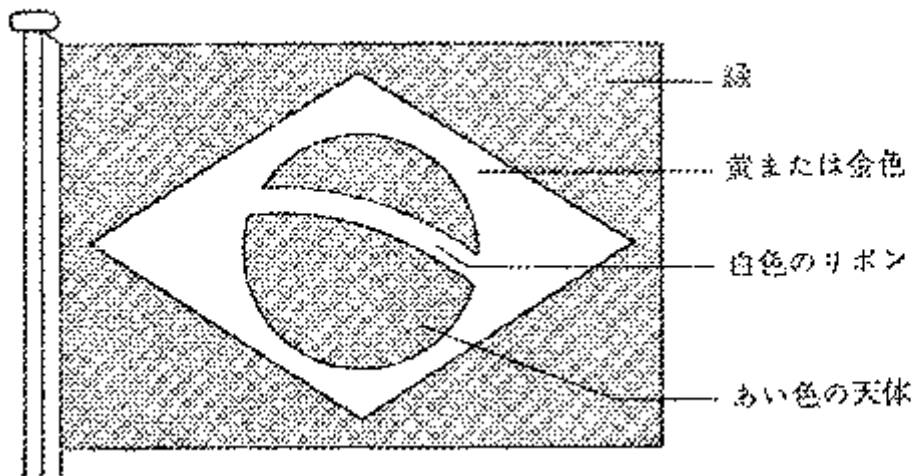
1 アルゼンチン



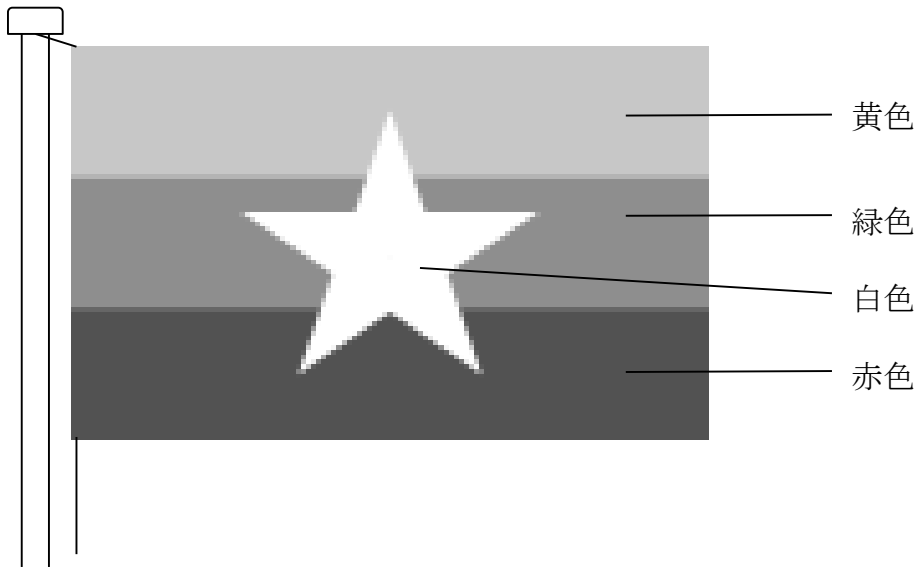
2 オーストラリア



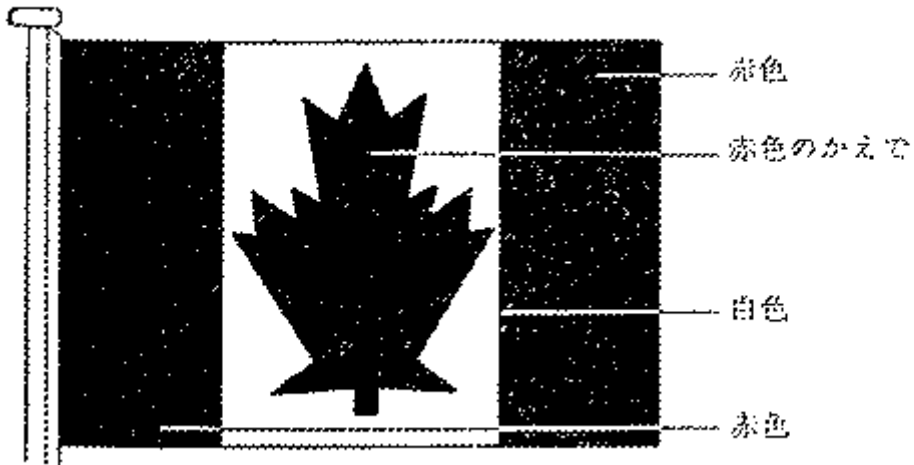
3 ブラジル



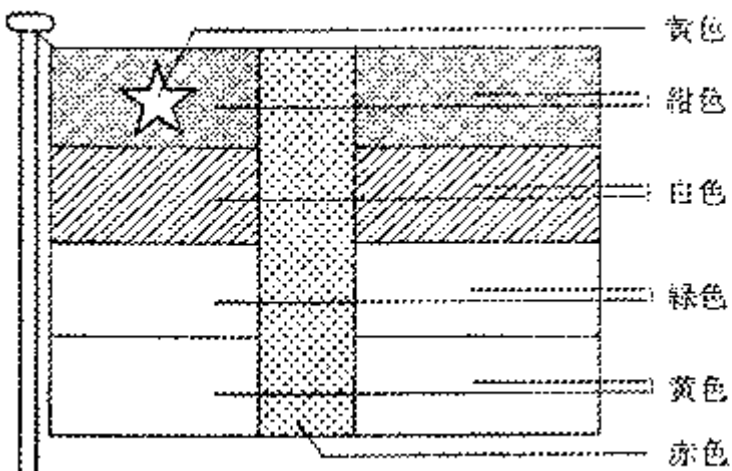
4 ミャンマー連邦共和国

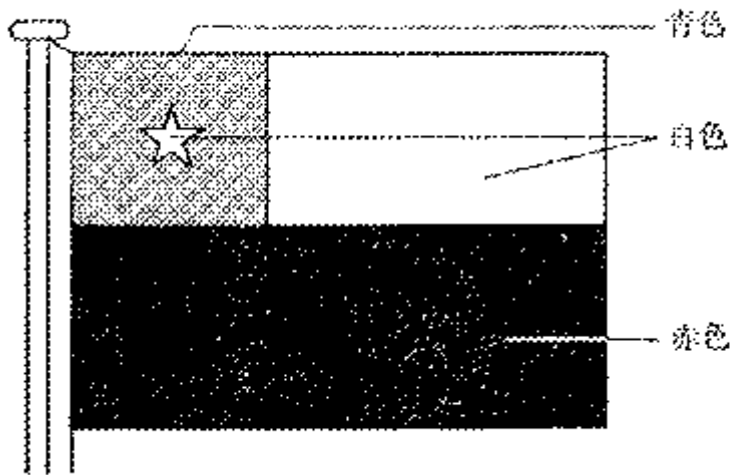


5 カナダ

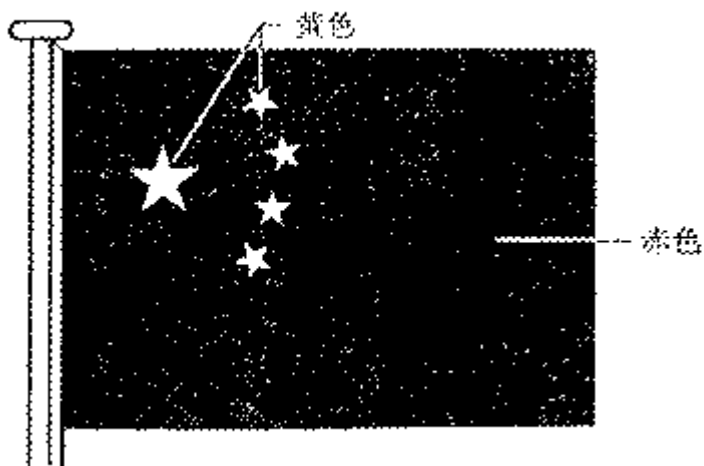


5-2 中央アフリカ共和国

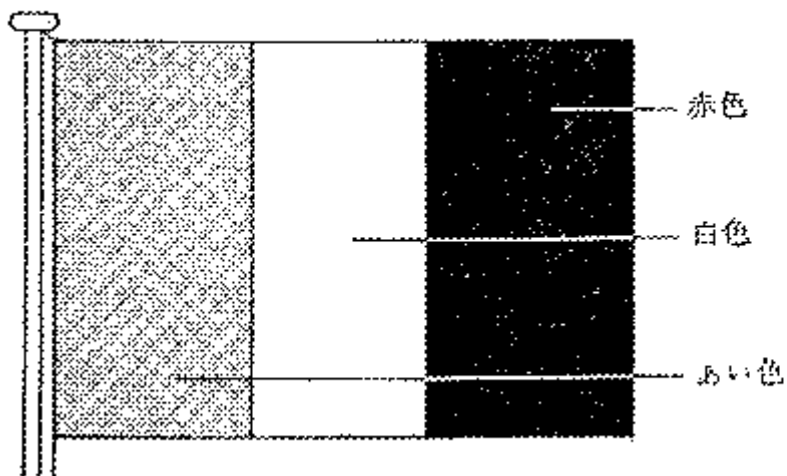




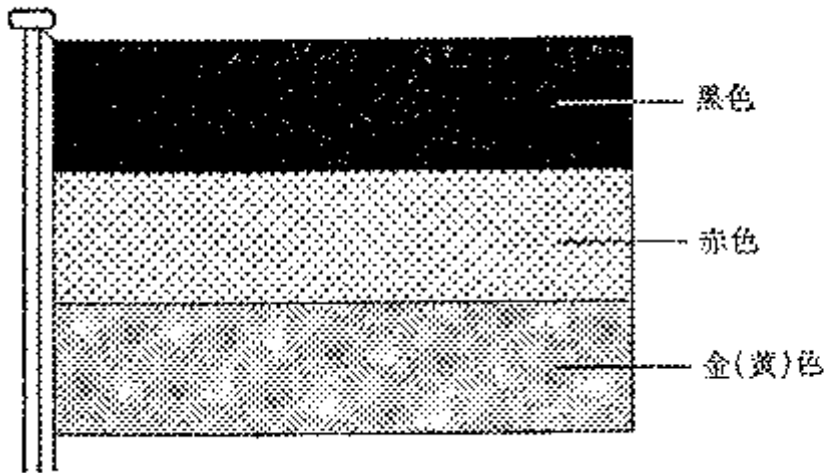
6 中華人民共和国



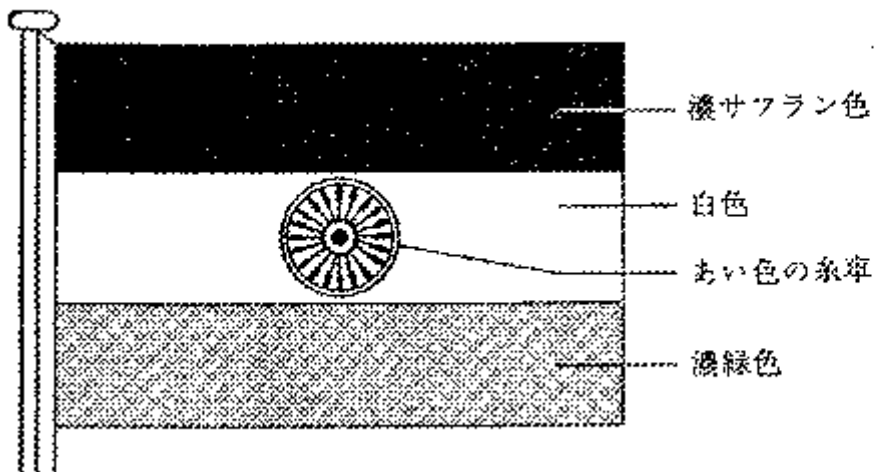
7 フランス



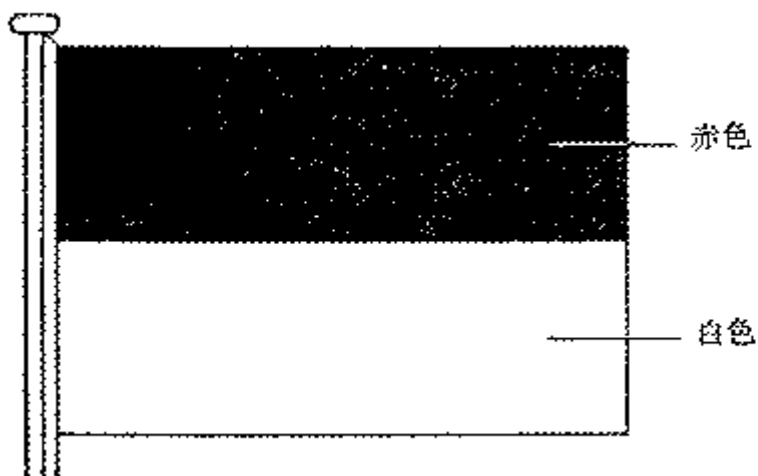
8 ドイツ連邦共和国



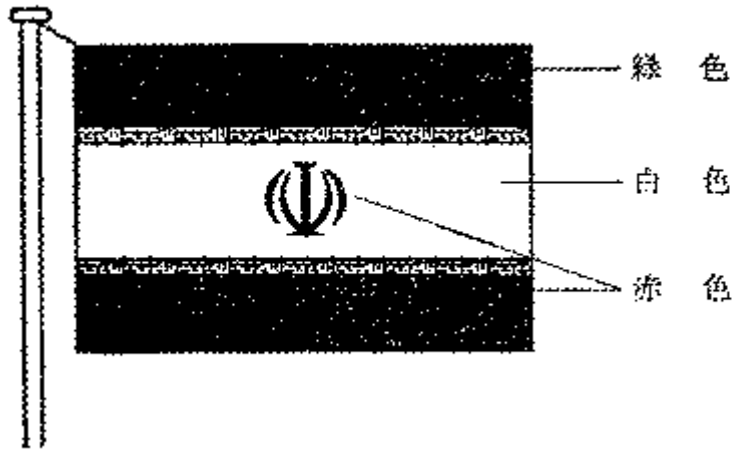
9 インド



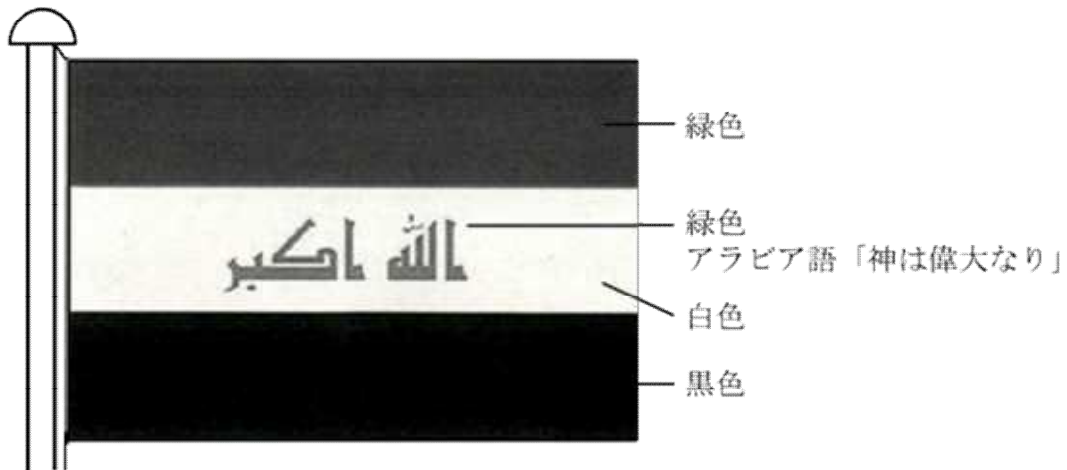
10 インドネシア



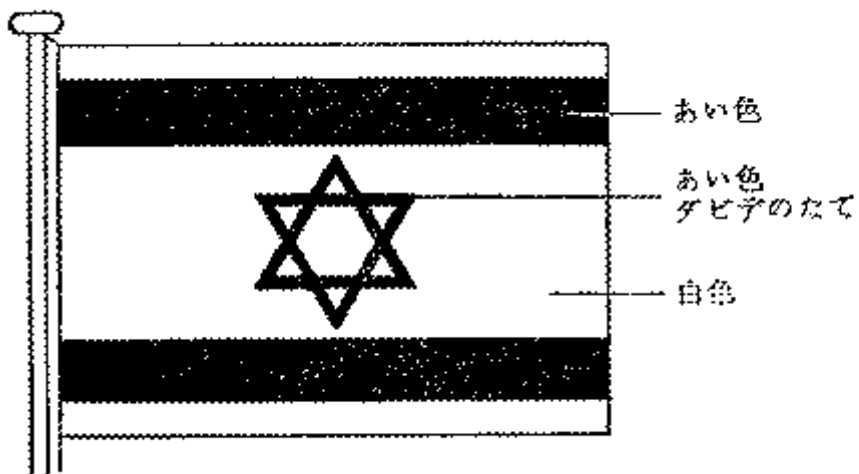
10-1-2 イラン



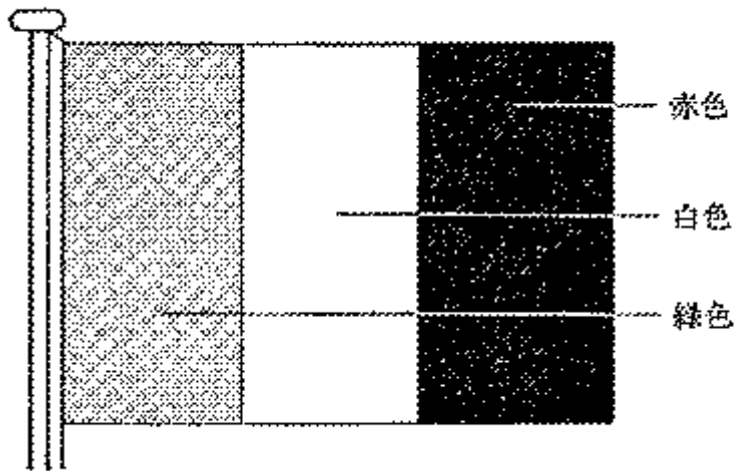
10-2 イラク



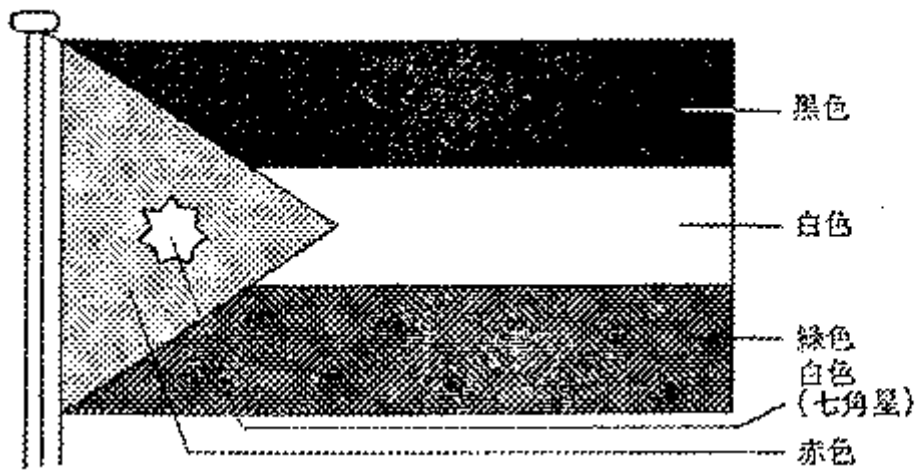
11 イスラエル



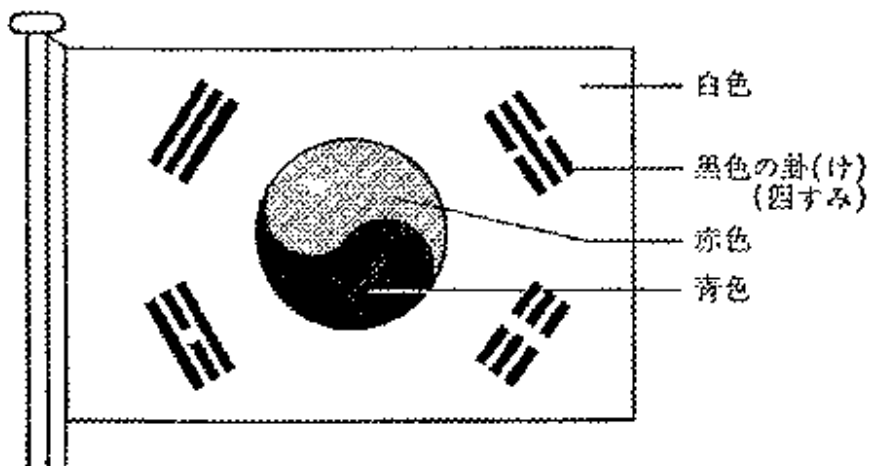
12 イタリア



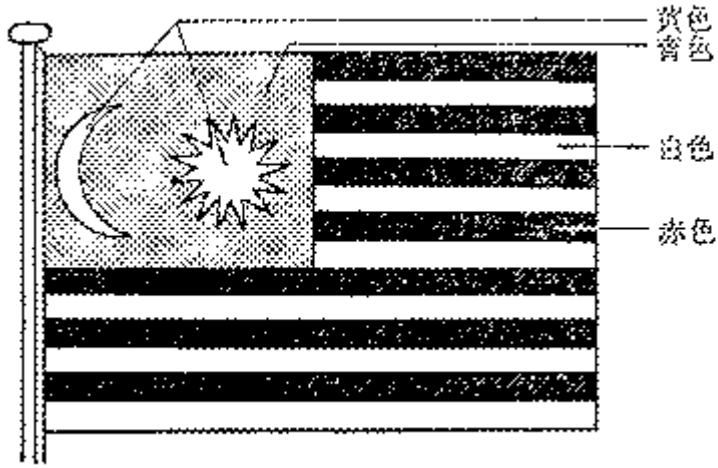
12-2 ジョルダン



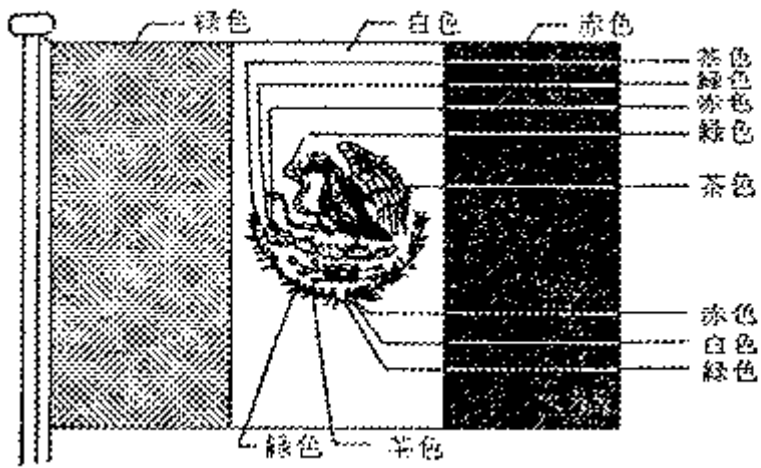
13 大韓民国



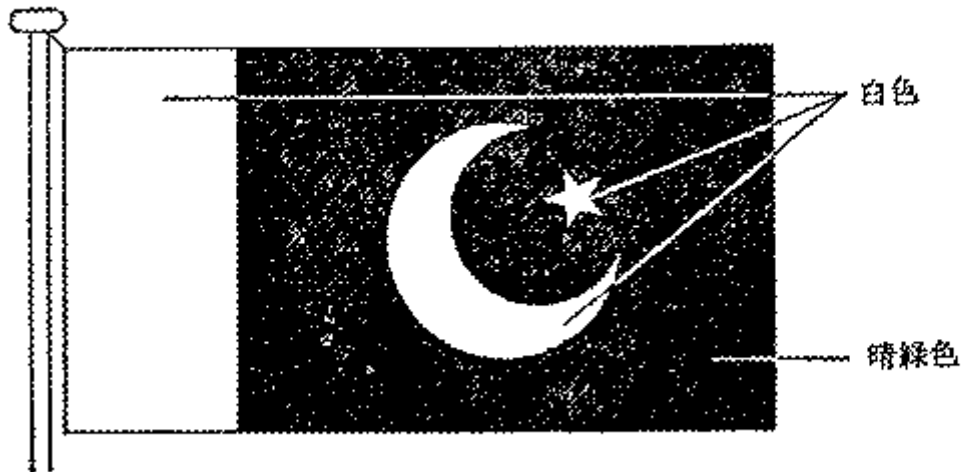
13-2 マレーシア



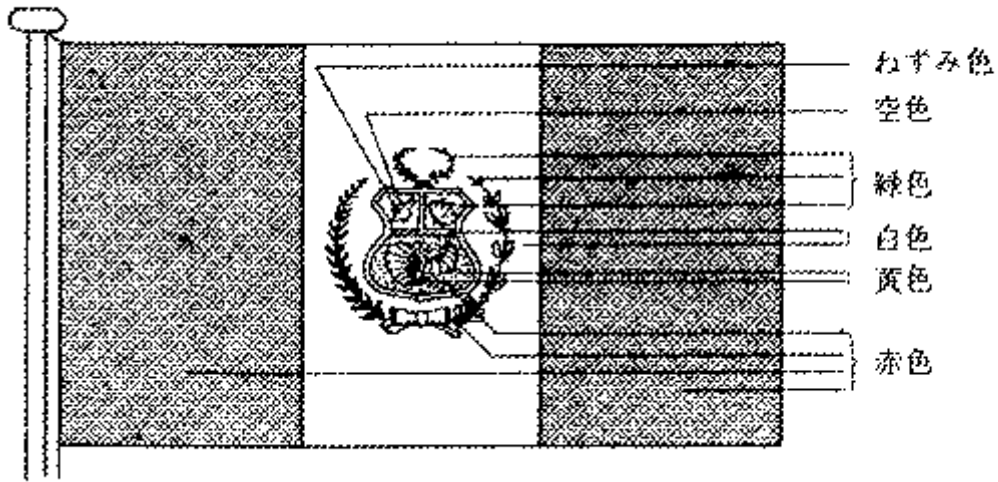
13-3 メキシコ合衆国



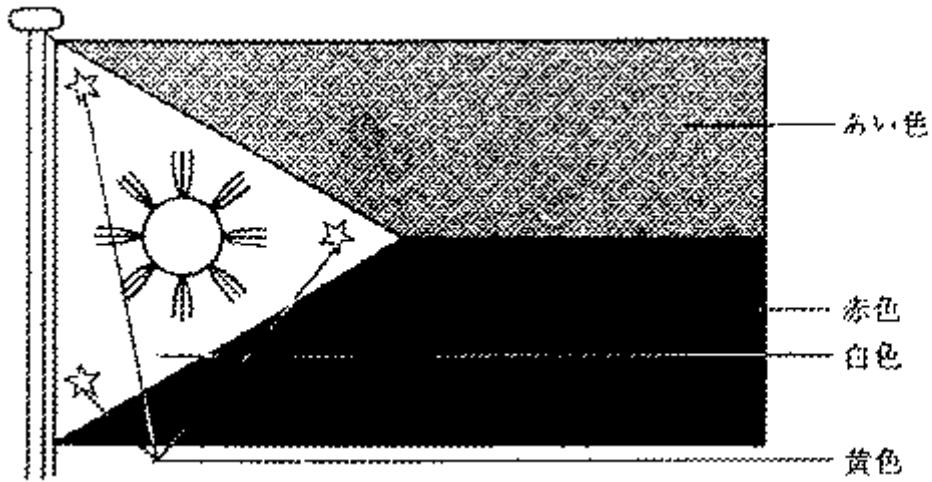
14 パキスタン



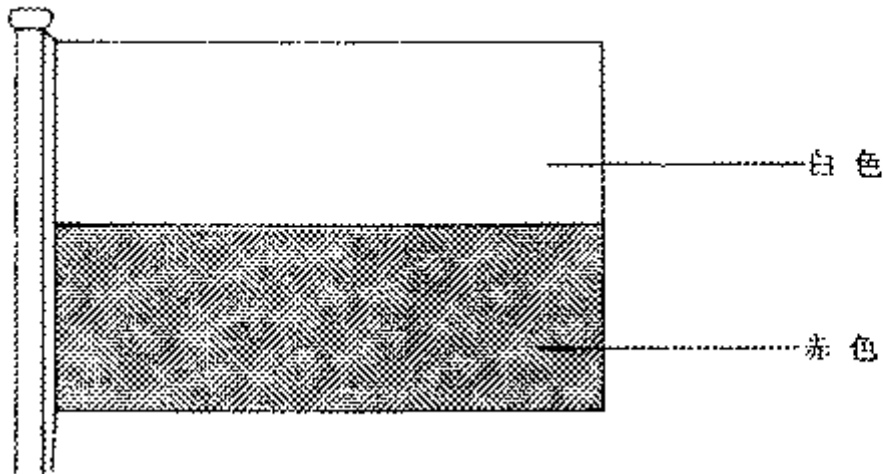
14-2 ベルギー共和国



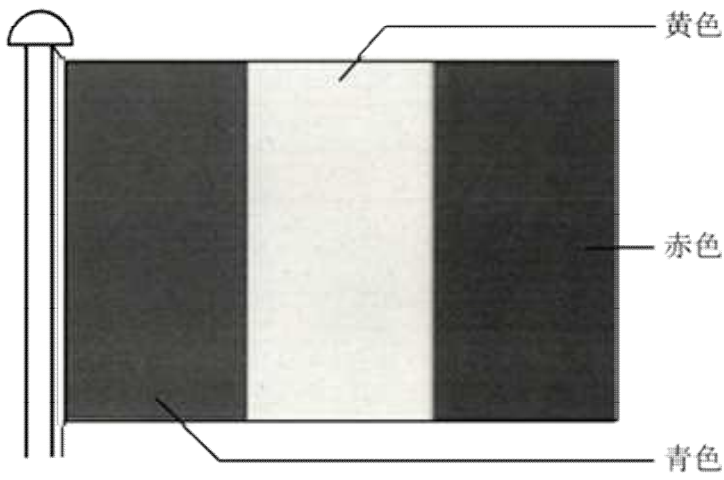
15 フィリピン



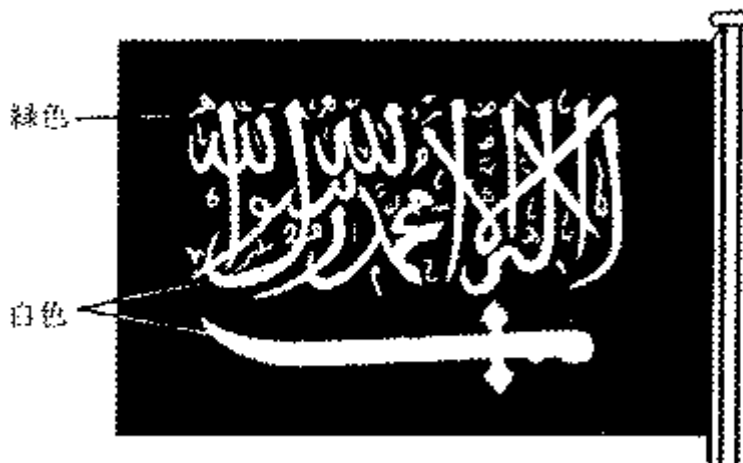
15-1-2 ポーランド



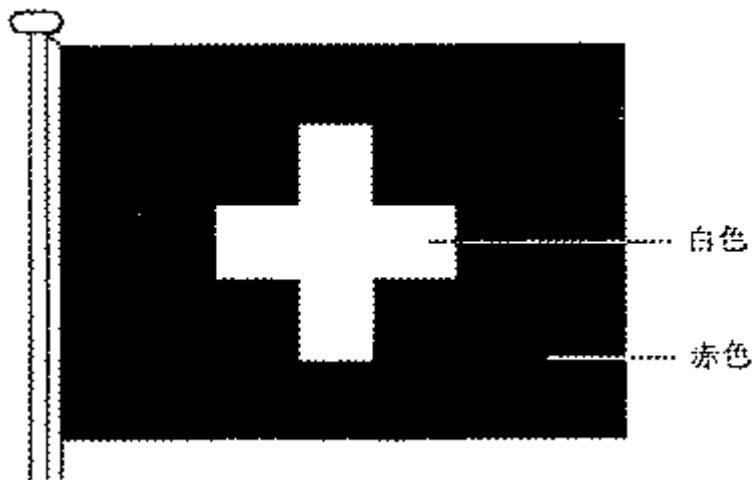
15-2 ルーマニア

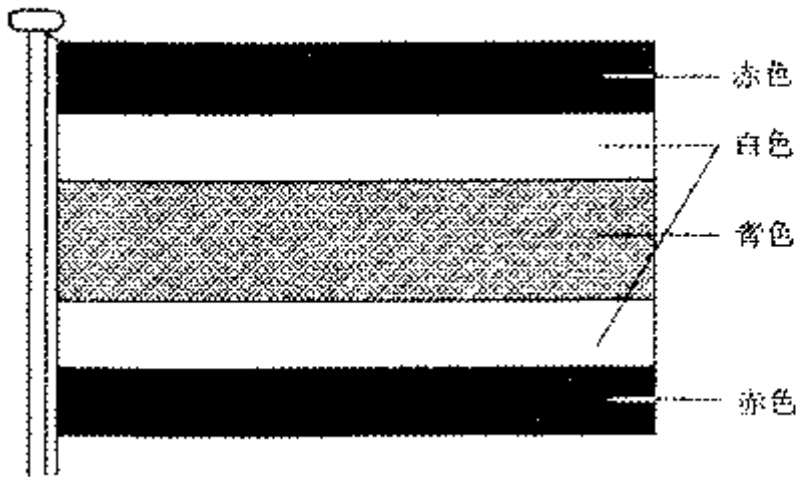


15-3 サウディ・アラビア

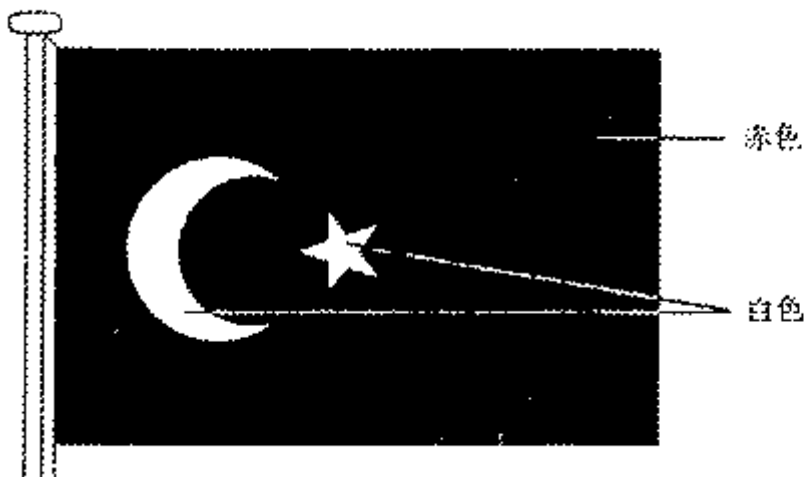


16 スイス連邦

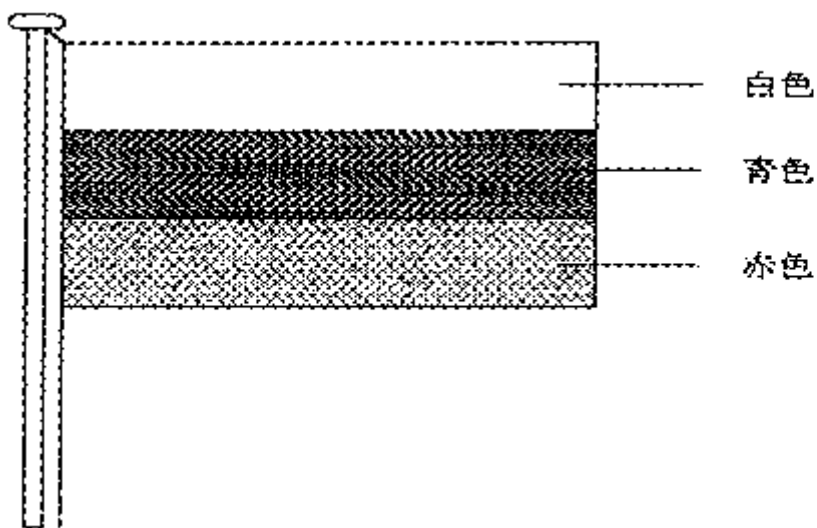




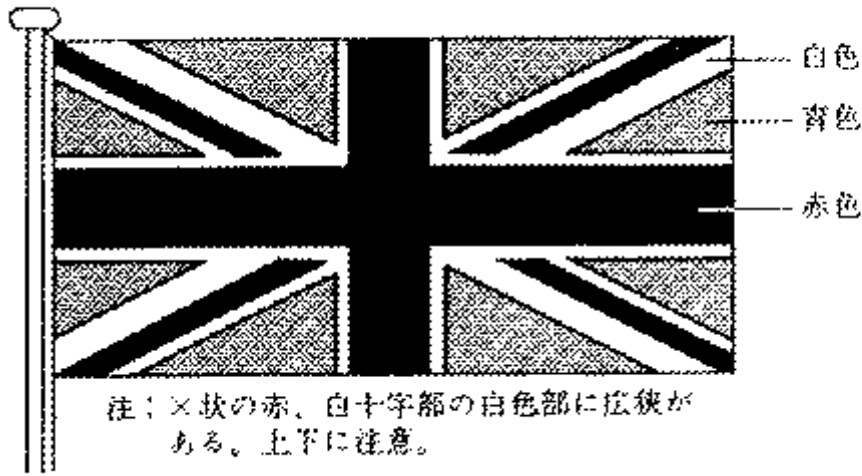
17-2 トルコ



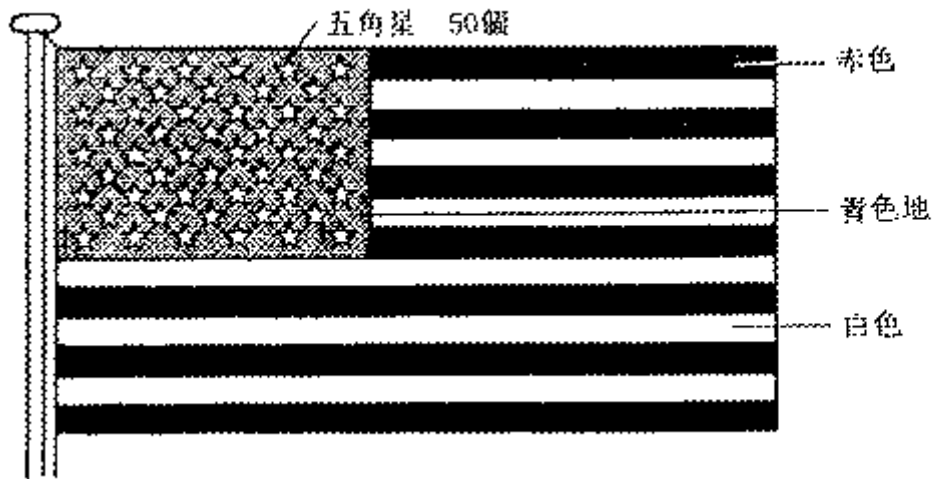
18 ロシア連邦



19 イギリス (ユニオンジャック)



20 アメリカ合衆国 (星条旗)



解説

- 1 外国武官等が軍の部隊、機関を訪問する場合、訪問者の国の国旗を掲揚、捧持または室内に飾り、表敬する諸外国の慣例にかんがみ、陸上自衛隊においても儀礼用国旗の使用について検討していたが、次の理由により実現するに至らなかった。
 - (1) 備付外国国旗の範囲決定の困難性
全世界の国旗を備え付けることは、経費と維持管理上至難であるが、特定国に偏しても国際儀礼上好ましくない。
 - (2) 適正な維持管理および使用の困難性
制式や使用上のあやまりの絶無を期さねばならない。
- 2 今回、日本へ駐在武官を派遣している国の国旗に限定して備え付けることが、妥当かつ可能との結論を得たので、次の要領により暫定実施することとした。
 - (1) 使用する部隊等、使用する場合および国旗の備付部隊等を当初限定し、将来、実態を見て拡大することとする。
 - (2) 室内における使用を主とし、屋外で使用する場合も、防衛庁舎前における儀じょう等実施規定との関連もあり、儀じょう隊の隊列に入れ使用しまたは国歌を奏樂することはしない。
 - (3) 外国国旗の上下左右を明らかにし、正しい使用に留意する。